

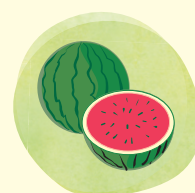
# 落花生

営農部営農振興課 営農指導員 石井 枝里奈



## 農業

# テクニカルダイアリー



# スイカ

芝山経済センター 営農指導員 古谷 公一

●**マルチ除去**  
収量・品質が低下しないよう、開花期（圃場の50%の株に1輪でも花が咲き始める頃）の7〜10日後にマルチを除去し、雨水や灌水した水が浸透するようにしましょう。

●**病害虫対策**  
表③を参考にして、薬剤防除を行ってください。白絹病や茎腐病の被害株は早めに抜き取りましょう。

●**畑の準備・播種**  
落花生は連作障害が出やすい作物なので、他の作物と輪作してください。元肥には落花生専用（5-15-20）を10ℓ当たり60㌔、苦土石灰を10ℓ当たり60㌔、80㌔施用します。準備ができたら、ベッドを作って2条用マルチ（孔径8㌔）を敷き、畝間130㌔、株間30㌔で1〜2粒ずつ播種します。

●**中耕**

栽培のポイント（表②参照）

●**乾燥**  
掘り取り後は5〜7日間地干しします。その後、風通しの良い場所で野積みし、ブルーシ

●**試し掘り**  
収穫が遅れると、落ち莢が多くなったり、食味が低下したりするので、必ず試し掘りをして収穫適期を逃さないようにしましょう。

●**灌水**  
7月下旬〜8月中旬（結莢〜英肥大期）に干ばつ害を受けると、子実の肥大が停止して空莢が発生し、収量が大きく低下します。畑が乾いているときは、1回当たり30〜40㌔灌水してください。

●**中耕**  
開花初期から1〜2回、中耕を行います。子房柄が地中に侵入しやすくなり、収量を上げる効果があります。除草も兼ねて7月下旬までに行いましょう。

表② 落花生の栽培暦

|        | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 収穫適期目安  |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|
|        | 上 中 下 | 上 中 下 | 上 中 下 | 上 中 下 | 上 中 下 | 上 中 下 |         |
| 千葉半立   | ○     | ○     | ★     | ★     |       |       | 開花期後95日 |
| ナカテユタカ | ○     | ○     | ★     | ★     |       |       | 開花期後80日 |
| Qなっつ   | ○     | ○     | ★     | ★     |       |       | 開花期後80日 |

○・・・播種 ★・・・開花期 □・・・収穫

表③ 落花生に登録のある薬剤

| 薬剤名       | 対象病害虫      | 使用時期     | 希釈倍率・使用量   | 使用回数 |
|-----------|------------|----------|------------|------|
| フォース粒剤    | コガネムシ類幼虫   | 播種時      | 9kg/10アール  | 1回   |
| トフチオン細粒剤F | ヒョウタンゾウムシ類 | 収穫60日前まで | 9kg/10アール  | 2回以内 |
| トップジンM水和剤 | 褐斑病、茎腐病    | 収穫7日前まで  | 1500倍      | 4回以内 |
| フロンサイド粉剤  | 白絹病        | 収穫45日前まで | 20kg/10アール | 1回   |

| 2月の分析経過について |             |
|-------------|-------------|
| 合計2点        |             |
| 多成分一斉分析     | レタス……………1点  |
| 残留農薬分析点数    | キュウリ……………1点 |

※残留農薬分析において、基準値を上回る成分は検出されませんでした。

土壌診断点数 …… 合計51点

## 「営農情報メール」配信中!

作柄情報、病害虫対策、青果物概況、イベント案内など、営農に役立つ最新情報をお届けします。

↓登録はこちらから（登録無料）



JA山武郡市の組合員ならどなたでも登録できます。



写真④ トンネル乾燥  
（千葉県「落花生栽培の手引き」より）

表① スイカに登録のある殺虫剤

| 薬剤名             | 希釈倍率  | 使用時期<br>(収穫前日数) | 使用回数 | 対象害虫  |
|-----------------|-------|-----------------|------|-------|
| モスピラン顆粒水溶剤      | 2000倍 | 3日前まで           | 3回以内 | アブラムシ |
| ウララDF           | 2000倍 | 前日まで            | 2回以内 | アブラムシ |
| カネマイトフロアブル      | 1000倍 | 前日まで            | 1回   | ハダニ   |
| ダニサラフロアブル       | 1000倍 | 前日まで            | 2回以内 | ハダニ   |
| 登録拡大 ダニオーテフロアブル | 2000倍 | 前日まで            | 2回以内 | ハダニ   |
| マイトコーネフロアブル     | 1000倍 | 前日まで            | 1回   | ハダニ   |



写真①  
ダニオーテフロアブル

ハダニ類は下葉や株元から発生し、葉裏に寄生しています。世代交代が早く、薬剤抵抗性が高まりやすいので、系統の異なる薬剤のローテーション散布をしましょう。

ハダニ類防除の新たな一手に、ダニオーテフロアブルが適用拡大しました（写真①）。ダニオーテフロアブルは、新規成分の殺ダニ剤で天敵生物に影響がなく、全ステージのハダニに効果が期待できます。ただし、浸透移行性はないので、葉裏にまでしっかりとかかるように散布してください。

## ハダニ類防除



写真② アザミウマ被害

アブラムシ類が多発すると葉が縮れます。アザミウマ類が多発すると、果皮を吸汁し、白ぶくれが発生します（写真②）。薬剤散布はミツバチへの影響日数を考慮して、選定しましょう。ウララDFやモスピラン顆粒水溶剤の使用が効果的です。

## アブラムシ・アザミウマ類防除



写真③ 果実の割れ

裂果の原因は、着果数が不足していること、初期肥大が不足していること、低温に遭遇し、果皮が硬くなって肥大に耐えられなかったこと等があげられます（写真③）。裂果した果実を割れたからといってすぐに摘果すると、樹勢が強くなり、肥大終盤に急激に養分が果実内部に行き渡り、空洞果などにつながります。割れた果実も摘果せず、しばらく残しておくことで、本来の栄養成長（樹勢と生殖成長・着果負担）のバランスを維持します。

## 裂果が起きた後の対策